

令和7年度 印西市民アカデミーだより 第10号

講座10：歴史散策② / 結縁寺(けちえんじ)

9月28日、毎年この日に行われる結縁寺の御開帳に合わせて、本講座を開催しました。今回は、印西市を代表する古刹・結縁寺を舞台に、御開帳の時間に合わせて護摩焚き、周辺の散策、そして国指定重要文化財「銅造不動明王立像」の拝観を行う内容となりました。講師には、印西ふるさと案内人協会のお二方をお招きし、ご自身の調査・研究の成果をアカデミー生にご紹介いただきました。（うちお一人は、本アカデミー卒業生の先輩でもありました。）

御開帳の護摩炊きに先立ち、結縁寺手前に整然と並ぶ石塔や五輪塔の由来について、丁寧な解説をいただきました。護摩焚きの時間が近づく中、本堂に向かうと、参道の六角石塔から山門にかけて、彼岸花が見頃を迎えつつあり、御開帳に彩を添えていました。



護摩炊きが始まると、住職（松虫寺が寺務を兼務）の読経とともに炎が勢いよく燃え上がり、お寺の総代の方々が札を清める姿が見られました。この様子は代々、脈々と受け継がれてきた伝統の一端を感じさせるもので、参加者一同、深い感銘を受けました。

その後、結縁寺を一旦離れ、鎮守である熊野神社へ向かいました。鳥居をくぐると、石段の右手前に「入定塚」があります。これは、源頼政の遺徳を慕って伊勢の国から訪れた一人の尼僧が入定したと伝えられている場所で、小さな石碑が建てられています。



さらに木々に覆われた坂道を進み、「頼政塚」へ。源頼政は平家討伐の命を受け宇治で拳兵するも敗れ、宇治平等院で自害したとされています。この塚は、その首を埋めた場所として伝えられています。近くには、頼政の首を運んだ名馬を葬ったとされる「名馬塚」があり、馬頭観音の刻像塔や文字塔など十数基が並んでいます。

再び結縁寺へ戻り、本堂に安置されている国指定重要文化財「銅造不動明王立像」を拝観しました。国指定の不動明王のうち、銅造は全国で3体しかなく、非常に貴重なものです。しかも、この像を手の届く距離で拝観できるのは、ここ結縁寺だけとのことでした。



最後に、今回の散策のご案内をいただいた方が本アカデミーの卒業生であったことは、アカデミーの趣旨を体現するものであり、今なお自己研鑽に励まれている姿は大変素晴らしく、参加者にとっても大きな励みとなりました。今後の皆さんの活躍も、ますます楽しみです。